

どうして話題に？

PM2.5が国内で大きな話題になったのは、平成25年1月のことです。

この頃、中国の国内のニュースで、以前から問題となっていた大気汚染が深刻な状況にあると、初めて報道されました。その中で、大気汚染の主な原因とされたのが、PM2.5でした。

そのニュースが日本でも報道され「PM2.5が気流に乗って日本に流れてくる」ということで、広く知られるようになりました。PM2.5は実際には、この時期よりも前から日本に流れ込んでいたと考えられています。

現在は、各国で排ガス規制などの大気汚染対策が進み、大陸からの流入は改善されつつあります。一方、依然として野焼きの煙がPM2.5の発生源として懸念されています。

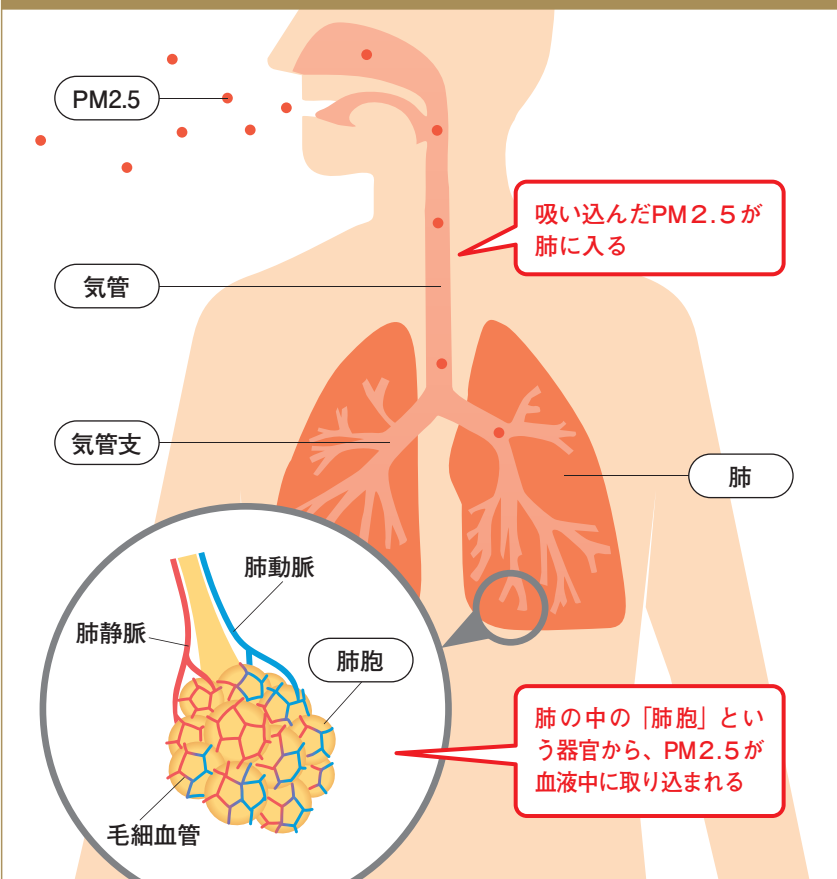


PM2.5が及ぼす影響

花粉や黄砂よりもより深刻な健康被害を及ぼす恐れがあるという点で、注意が必要と考えられます。PM2.5はとても小さいため、肺の奥深くから血管まで入り込む恐れがあります。そのため、アレルギーや呼吸器疾患だけでなく、循環器系の疾患に影響を及ぼす場合があります。

特に高齢者は血管が狭くなっている場合が多く、注意が必要です。入り込んだ粒子に当たった血管は、炎症を起こします。炎症でさらに血管が狭くなり、結果として急性の疾患を引き起こす恐れがあります。高齢者のほかに、まだ体が発達途中にある子どもや、呼吸器・循環器に疾患を持っている人も、PM2.5の濃度が高いときには、注意する必要があります。

PM2.5が体内に入ると



市では、PM2.5の1日の平均値が70 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ （マイクログラム毎立方メートル）を超えたとき、災害情報伝達システムや広報車で注意喚起を行います。



市の注意喚起



福岡県
大気環境情報

PM2.5の濃度は減少傾向にあり、今後悪化する可能性は低いとみられています。今はまだ注意を要するレベルになるところがあります。福岡県のPM2.5の濃度の観測結果をホームページで見ることができ、もっと身近な目安として、少し遠くの景色を見るところがおすすめです。たとえば大野城市から背振山の方向を眺めたときに、山がぼんやりしているときは濃度が高く、木々の緑がはっきりと見えていれば、濃度は低いと判断できます。